

鳥取環境大学 経営学部経営学科

A アジア交易とビジネス取引

地方創生グローバル人材育成に必要な「貿易実務」を中心に学習します

この授業では、①交易の基本原則や輸出入取引に関する基礎的事項を実務に即して学習する。また、②アジア諸国と取引する場合の基本をいくつかの国との具体的なビジネス事例などを示しながら理解を深めていく。さらに、③中国・四国の企業がアジア地域で事業展開し、また当該地域の企業と取引関係を形成するには、どんな知恵と戦略が求められるか等についても、実際に即して考察する。併せて、受講生が、将来、アジア交易に関わろうとする積極的なマインド形成にも意を用いる。

受講者は、「貿易実務英語」、「国際金融の実務」を併せて履修することが望ましい。

①交易の基本原則や輸出入取引に関する基礎的事項を実務に即して学習する。

・貿易実務の学習

なお、以下にある「国際金融の実務」の”輸出入契約に伴う荷為替・信用状取引や輸入為替決済の仕組みなどを中心とする”の取り扱いは、「決済」と「為替」でも学習します。

⇒貿易実務：<http://www.geocities.jp/nagamitsu1950/jitsumu-index.pdf>

②アジア諸国と取引する場合の基本をいくつかの国との具体的なビジネス事例などを示しながら理解を深めていく。

・アジアとは <http://ja.wikipedia.org/wiki/Category:%E3%82%A2%E3%82%B8%E3%82%A2%E3%81%AE%E5%9C%B0%E5%9F%9F>

課題1：アジアの国と地域にはどのようなものがあるかまとめなさい。

・2013年度海外直接投資アンケート結果(第25回)－2013年11月国際協力銀行による投資事情からアジアを見る http://www.ibic.go.jp/wp-content/uploads/press_ja/2013/11/15775/2013_survey.pdf

課題2：IV. 中期的な有望国・地域における上位10か国地域の有望理由と課題をまとめなさい。

・日本の食品輸出の実態 <http://www.geocities.jp/nagamitsu1950/japan-food-tottori.pdf>

課題3：農林水産物・食品の主な品目の輸出量・額の動向について、平成25年の24年との対比において伸び率の大きい上位10品目を挙げなさい。

課題4：原発事故による諸外国の食品等の輸入規制の動きとして、平成26年2月現在の主な輸出先国の輸入停止措置についてまとめなさい。

課題 5 : 農林水産物・食品の輸出額を 2020 年までに 1 兆円規模へ拡大する国別・品目別輸出戦略として、どのような戦略が考えられているか、まとめなさい。

課題 6 : 2013 年の海外の「日本食レストラン」店舗数を地域別にまとめなさい。

・ジェトロ J-File 貿易と投資の様々に事例 <http://www.jetro.go.jp/world/qa/>

課題 7 : 「各国の輸出入・投資制度に関する Q&A」より、諸君が関心のある国又は地域を一つ選び、輸出又は輸入又は進出(投資)に関する相手国の制度において、諸君が関心のある事例を一つ選び、まとめなさい。

③中国・四国の企業がアジア地域で事業展開し、また当該地域の企業と取引関係を形成するには、どんな知恵と戦略が求められるか等

・物流ルート 「地の利」をどう活かすか：まず、鳥取の地の利を知ろう。

境港航路 <http://www.tottori-kaigai.com/index.php?view=4858>

中国四国国際定期航路 <http://www.mlit.go.jp/common/000022321.pdf>

課題 8 : 境港からの外航航路にはどのような航路があるか調べなさい。

・コンテナ船について

Wikipedia より <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%86%E3%83%8A%E8%88%B9>

課題 9 : 世界のコンテナ船運航船腹量の上位 20 社を挙げなさい。

・港湾別のコンテナ取扱貨物量(2013年速報値) <http://www.mlit.go.jp/common/001045743.pdf>

課題 10 : 上のサイトの港湾別のコンテナ取扱貨物量(2013年速報値)より、中国四国地域の港湾の外貨コンテナの出荷量の順位を 10 位まで調べなさい：

参考サイト：

日本と東北アジアの貿易の現状及び展望－鳥取県境港を事例にして－招へい客員研究員 巴殿君著 http://www.kankyo-u.ac.jp/f/innovation/torc_report/report29/29-ba.pdf

境港貿易振興会：<http://www.sakaiminato-faz.co.jp/>

堺港の最新の貨物取扱データ：<http://www.pa.cgr.mlit.go.jp/sakai/sakaipor/sakaigaiyou.php>

堺港要覧：http://copilog2.jp/sakaipor/previews/ad_catalog/1/1

境港総合静脈物流拠点整備計画(案)：<http://sakai-port.com/files/lib/3/8/201308152107013250.pdf>
(リサイクル拠点)

発展する境港

境港は、自然条件に恵まれた山陰地方随一の良港で、地理的には、敦賀、関門両港のほぼ中間に位置し、阪神、山陽、九州の各経済圏とも密接な関係を有する日本海国内航路の要衝である。また、境港の開港は、神戸税関管内で神戸港について古く（明治29年10月開港）、当時は、中国の大連、朝鮮民主主義人民共和国の清津・元山、韓国の釜山との定期航路が開港されていた。

昭和26年、重要港湾に指定。同33年には、鳥取・島根両県協定による境港管理組合が発足し、現在に至っている。昭和41年に後背地一帯が中海地区新産業都市に指定され、平成元年には、初の定期コンテナ航路（東南アジア航路・平成12年廃止）が開港されるなど、地域内工業開発と対外貿易を骨子とする新たな前進を遂げた。特に平成7年は、境港が貿易港として大きな飛躍を遂げた年であり、輸入促進地域計画（境港FAZ計画）が国から承認されるとともに、中国・韓国との定期コンテナ航路も開設された。平成16年には、山陰地域初の国際コンテナターミナルとアクセス道路となる江島大橋が供用を開始し、物流拠点としての機能が充実した。

そして、平成21年、悲願であった環日本海諸国を結ぶ国際定期フェリーが就航。平成23年には日本海側拠点港に選定され、モノとヒトが交流する「北東アジアゲートウェイ」として、その地歩を固めつつある。



境港全景

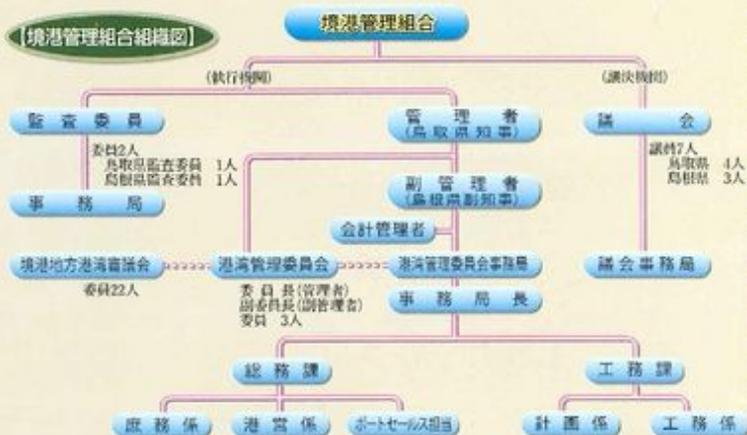
年次	西暦	事項
文化1	1804	鳥取藩「御米役所」を設置
文久1	1861	鳥取藩「御手船役所」を設置
明治11	1878	日本郵船・三菱汽船定期航路寄港開始
〃 16	1883	全国主要港湾に指定
〃 17	1884	大阪商船定期航路寄港開始
〃 18	1885	隠岐・境間定期航路開設
〃 23	1890	県費支弁港に指定
〃 29	1896	開港外貿易港に指定
〃 30	1897	大阪商船司検所（現中国運輸局、鳥取運輸支局（境庁舎））開庁
〃 32	1899	開港港則により新開港場22港の中に指定（境港開港に指定）
〃 40	1907	山陰地方貨物集散地として重要港湾に指定
大正11	1922	防波堤増築、大型船岸壁築造（昭和5年まで）
昭和2	1927	第二種重要港湾に指定
〃 18	1943	安芸調査委員団の調査・境港拡張6ヶ年計画策定
〃 26	1951	港湾法施行令により重要港湾に指定
〃 33	1958	鳥取・島根両県協定により港湾管理者として境港管理組合設立
〃 40	1965	外港1万トン岸壁第一バース竣工式挙行
〃 41	1966	中海地区新産業都市指定
〃 44	1969	外港ふ頭（-9.0m岸壁2バース、-7.5m岸壁2バース、-4.5m岸壁3バース）完成
〃 48	1973	外江ふ頭第2岸壁（-4.5m岸壁5バース）完成
〃 52	1977	中野ふ頭（-4.5m岸壁10バース）完成
〃 56	1981	石油ドック（-7.5m岸壁1バース）完成
〃 57	1982	外港昭和南地区石油ドック（-7.5m岸壁3バース）完成
〃 58	1983	外港昭和南地区ふ頭（-13.0m岸壁1バース、-10.0m岸壁1バース）完成、森山地区ふ頭（-4.5m岸壁5バース）完成
〃 60	1985	竹内南地区公共マリーナ完成、江島地区木材ドック（-9.0m岸壁3バース）完成
平成元	1989	定期コンテナ航路（東南アジア航路）就航、江島地区水面貯木場完成
〃 7	1995	境港FAZ計画承認、定期コンテナ航路（中国・韓国航路）就航
〃 8	1996	40tコンテナ対応多目的クレーン設置、外港昭和南地区ふ頭（-7.5m岸壁1バース）耐震バース完成、江島地区ふ頭（-7.5m岸壁1バース）完成、コンテナ対応冷凍電源施設及びくん炭上屋完成
〃 9	1997	コンテナ上屋（CFS）完成
〃 12	2000	夜間照明設備完成
〃 16	2004	国際コンテナターミナル（外港昭和南地区ふ頭（-14.0m岸壁1バース））供用開始、臨港道路「江島大橋」供用開始
〃 18	2006	ガントリークレーン設置完了
〃 21	2009	外港昭和北地区に国際旅客ターミナル完成、国際定期フェリー（日本・韓国・ロシア）就航、公共マリーナに指定管理者制度を導入
〃 23	2011	リサイクルポート指定、日本海側拠点港（国際海上コンテナ、外航クルーズ、原木）に選定
〃 25	2013	「みなとオアシス境港」登録

境港管理組合とは

地方自治法第284条第1項に基づく、鳥取・島根両県で組織する一部事務組合（特別地方公共団体）である。

鳥取・島根両県の県境に位置する境港は、港の開発発展、利用促進及び管理運営を行う上で、行政区画を越えた一体化を図る必要があった。昭和32年8月、両県知事及び運輸省（現国土交通省）港湾局長の三者で境港の管理運営に関する覚書が交換され、翌33年4月、設立に伴う協定も締結、境港管理組合が発足した。

このような、港湾管理を一部事務組合が行っている港は、苫小牧、名古屋など全国に6港あるが、都道府県のみで組織している組合は、境港だけである。



躍進する境港

「北東アジアゲートウェイ」構想

北東アジアの経済発展に伴い、日本海における人的・物的交流活動が近年活発になっている。境港は、経済発展の著しいロシア極東から上海等の中国沿岸部までの中間に位置し、北東アジアの拠点としてふさわしい地理的優位性をもっている。また、日本国内においても、九州・瀬戸内・関西経済圏の中間にあり、環日本海諸国と西日本の経済圏を結ぶ結節点として、潜在的な能力をもっている。航空機やコンテナ、フェリー、クルーズ客船などニーズにあった多彩な輸送モードを整備し、ヒトとモノ、情報が交流する北東アジアの玄関口（ゲートウェイ）として発展する計画である。



境港2大プロジェクト

現状



整備計画

原木輸送船の大型化やリサイクル貨物の増加に対応する「国際物流ターミナル」の整備



我国唯一の環日本海定期貨客船やクルーズ客船に対応し、かつ国内物流ネットワークの拠点として機能する「複合一貫輸送に対応した貨客船ターミナル」の整備



B 貿易実務英語

地方創生グローバル人材育成に必要な「貿易英語」を中心に学習します

貿易は国際売買取引であるが、ここで使用される英語を貿易英語という。

貿易取引で使用される用語は、伝統的な商習慣などに基づき国際的な共通語としてルール化されている。個々の用語(英語)の意味は、引き合いから決済に至る取引実務に即して理解する必要がある。

したがって、この授業では、国際商取引の実務の流れに即して英語の文例や用語の意味・解釈などを学んでいく。

また、国際ビジネスにおいてはコミュニケーションとしての英語能力も重要であり、これに関わる英語も学習していく。

なお、英語のレベルとしては、日本商工会議所が主催する「ビジネス英語検定」3級から2級位を基準にしている。ここで学習する英文例や用語も該当検定のテキストを参考にしている。したがって、諸君が同英語検定受験を希望する場合も学習できるように以下のサイトにアップしている。

- 貿易英語の学習
学習サイト：
3級レベル：<http://www.geocities.jp/nagamitsu1950/nissho-bijinesu-eiken-1.html>
2級レベル：<http://www.geocities.jp/nagamitsu1950/nissho-bijinesu-eiken-2.html>
- 日商の「ビジネス英語検定3級・2級」にも挑戦してみよう！
<http://www.kentei.ne.jp/english/>

本講義もこれを利用して進める予定である。

貿易実務英語の学習は、貿易実務と並行して進めることが効果的であるため、受講者は、「アジア交易とビジネス取引」、「国際金融の実務」を併せて履修することが望ましい。